

「田川を世界にアピール」

アジア9カ国1地域の学生・研究者が「科学技術に基づいたものづくりを、地域にどう溶け込ませていくか」をテーマに論文発表する国際会議「医・理・文融合による革新的地域活性化国際会議」（毎日新聞社など後援）が10月1日午前9時から、田川市の県立大で開かれる。主催する地域振興学会の理事長、星野宗広・マルボシ酢会長は「田川を世界にアピールする絶好の

来月1日 県立大で国際会議

機会。今後も田川で隔年開催していきたい」と話している。

アジア9カ国1地域の学生・研究者

「科学を地域に」テーマ

振興学会によると、会議には韓国、フィリピン、中国、ベトナム、台湾などの25大学と7企業研究所の関係者約100人が訪れ、このうち70人が発表する。1

日は午後1時半まで国内外の予防医学や水素エネルギーの専門家ら7人による講演があり、その後、バイオ技術を使ったエネルギー論や、過疎地の有効活用策など71論文が主に英語で披露。関係者一行は会議前日の9月30日に田川市入りし、市石炭・歴史博物館や香春岳などを見学し、近畿大産が同大と度々共同研究をしている縁で誘致に成功したという。

【荒木俊雄】

業理工学部（飯塚市）での懇親会に出席する。1日は一般の傍聴自由。問い合わせは事務局0947・471710。